

こんどうどくそんざぞうかけぼとけ
金銅独尊坐像懸仏

- ◇ 指定日 平成元年12月12日
- ◇ 所在地 川井(北上山地民俗資料館)
- ◇ 所有者 宮古市

懸仏とは、銅などの円板（鏡板）に仏像を取り付けたもので、神社やお堂で祀られていたものです。この懸仏は、鏡板が失われて尊像部分だけが残ったものです。

金銅独尊坐像懸仏は、高さ11.1cm、像高9.9cm、厚さ0.25cmの懸仏となっています。

この懸仏は、鑄造した本体体部や台座部に線刻を行い、その後金^との膜で覆う^と鍍金の工程を経て制作されています。

左手には薬壺^{やっこ}を持っており、薬師如来坐像と考えられます。

持ち主であった小国の田頭^{でんどう}家は、善行院^{ぜんぎょういん}と称して新山堂^{しんざんどう}を建立し、早池峰山に登拝する参詣者の宿所を務めてきた修験者でした。

現在は宮古市北上山地民俗資料館で保管・展示されています。

